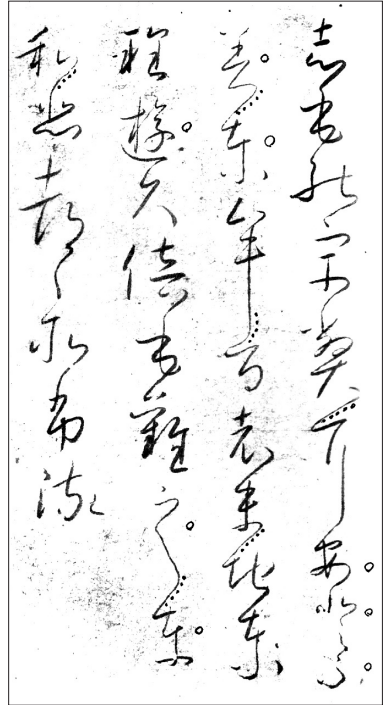


◆半紙たて書きに臨書して下さい。出品料420円



秋萩帖

- 1、字句 志毛能字弊耳 安登不美東牟留 者末地東理 遊久倍毛難之東 和悲都々所布流
- 2、形式 半紙をたてに使用し、原帖通りに収める。
落款は①四行目、下の余白
②四行目に添うように のいずれかに。
- 3、概観 一〜四回までは「大きく書く」を目標としてきました。大きく書くことにより、筆圧の変化や空間での筆の動き、連綿線の変化、転折での筆使いなどを原帖をじっくり観察し、考えながら練習することができたとおもいます。その学習をもとに、原帖の文字の大きさに近づけていきます。今回は一首を半紙に収めてみることにします。
- 4、臨書のポイント
 - (1)字形に
 - 一行目(一) 二行目(ふ) 三行目(く)
 - 文字を小さ目にし、行を縮める。
 - 一行目(あ) 二行目(ま) 三行目(あ) 四行目(あ)
 - 三行目(あ) 四行目(あ)
 - (2)筆づかい・穂先を利かせて書く文字(○)
 - 一行目(あ) 二行目(あ)
 - 三行目(あ) 四行目(あ)
 - (3)行に
 - 穂先を利かせて引く連綿線(…)
 - 各行とも、書き終わりがわずかに右へ傾く。
 - 行間は、ほぼ等間隔にする。
 - (4)その他
 - 一行目は九文字すべてが連綿している。どこで呼吸(筆を止める)をするかは、これまで学習してきたことを生かすこと。

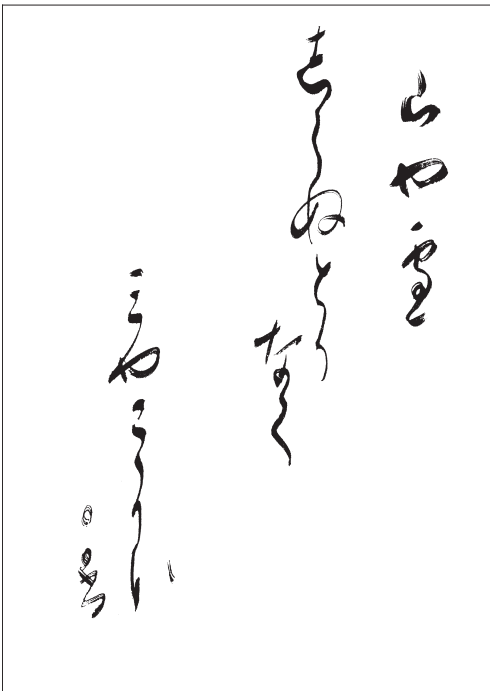
半 紙 予 告 (予告) (一月二十二日締切)



平岡華雪先生書 寒燈竹屋の間。(賈島)

訳：竹林の中の家から冬の夜の燈火がもれている。

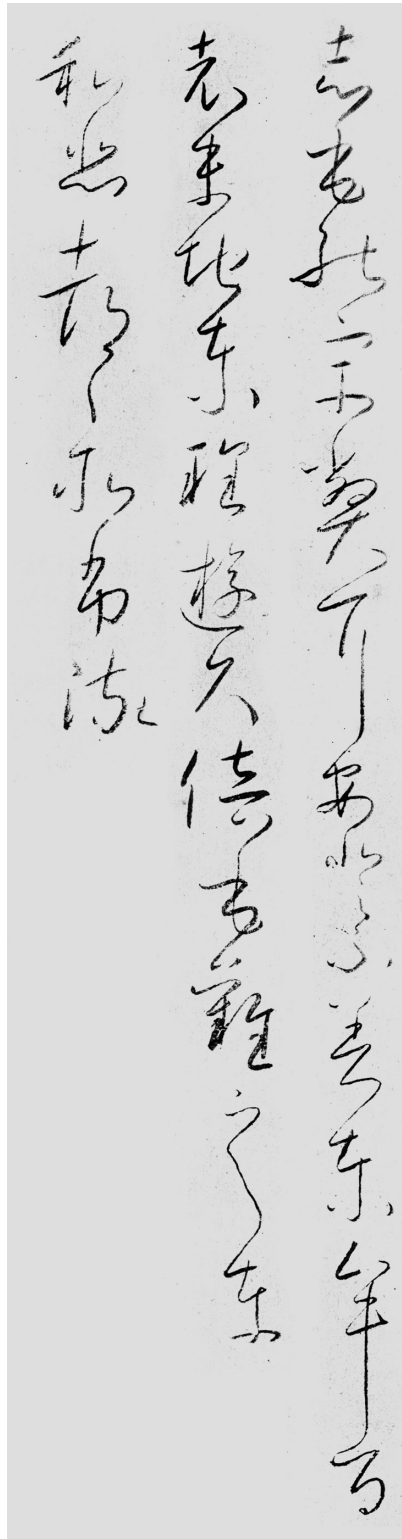
平岡華雪先生書 山や雪知らぬ鳥なくみやこかな(心敬)



条幅臨書部課題

(十二月二十二日締切)

秋萩帖



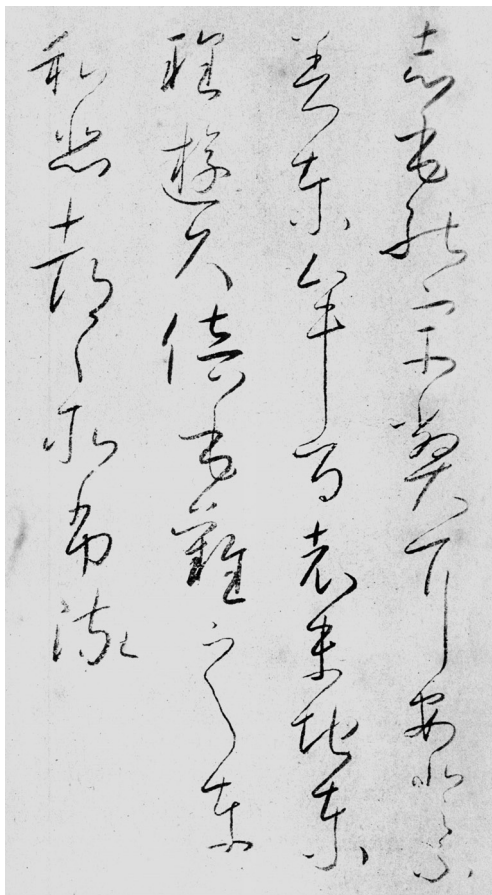
志毛能 字繁 耳安 登不美 東牟留者 末地 東理 遊久倍 毛難之 東和 悲都 所布流
 しものうへにあとふみとむるはまちどりゆくへもなしとわびつゝぞふる

今回の一首を半切に三行で書いてみましょう。一行目：志毛々牟留、二行目：者末々之東、三行目：和悲々流。つづけて名前を。(目安です)
 条幅臨書部は半紙臨書部と連動しています。半紙に取り組んだ方は是非条幅にもチャレンジしてください。また条幅だけ出品も大歓迎です。

▽字詰め自由。

▽落款は左余白に「〇〇臨」と調和を工夫し書き入れる。

▽出品料五二五円。



◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

A

高橋香樹主幹書

妙質不爲平世得 微言惟有故人知 (王安石)
 妙質は平世の得るところと為らず、微言は惟だ故人の知る有るのみ。



B

鈴木静村書

草書による流れを意識した作とする。流れを表出するにはいくつかの方法がある。①中心となる縦画の方向をいかにするか。②上の字をいかに受けるか。③文字形は方形になりやすいが、これを打破。④連続線を効果的につかう等。墨継ぎは「世」と「故」。草書は字典参照のうえ正確に。



妙 女偏の文字は難しいと？二画目がポイント。不 ひらがなの「ふ」とは、どこか違った表出を。爲 右辺三つの転折ハッキリと。平 末画はのびやかに、唯一の長縦画。得微 「ぎょうにんべん」二文字に少々工夫を。言 三画以下三点も可、字典参照のこと。故人 意連と連続線が目障り、どちらかを切る。
 訳：すばらしい資質は太平の世にあっては、認められることなく、その意義の深い言葉はただ親しい友人が理解しただけだ。

予告 (一月二十二日締切)

別日何易會日難 山川悠遠路漫漫 (文帝)

◆注意

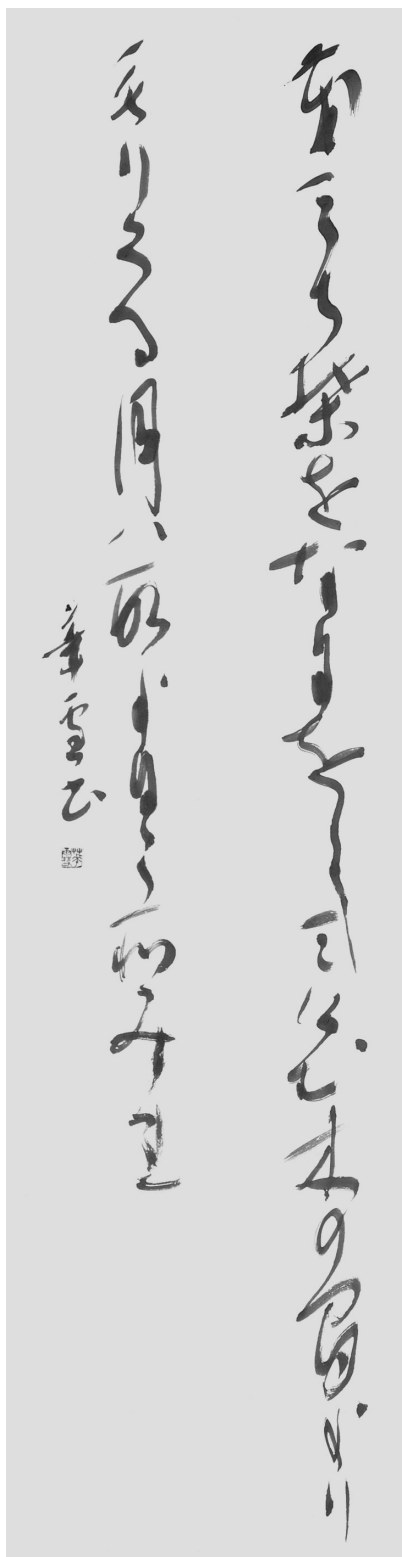
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料525円)

A

平岡華雪先生書

もみぢ葉をなにおしみけん木のまよりもりくる月は今宵こそみれ
 茂三ち葉をなをし三介む木の間よりもりくる月八故よ日こそみ連

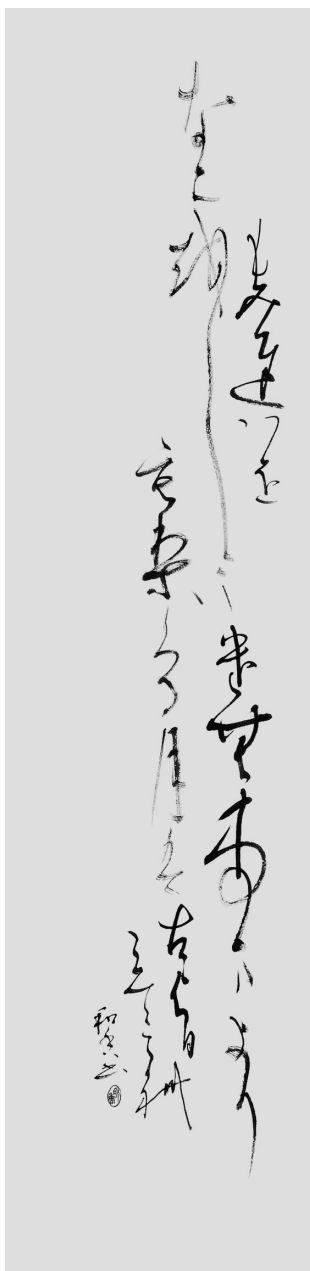
（新古今和歌集 中務卿具平親王）



B

小林和香先生書

もみ遅八をな二越し三遣無木の万より毛梨久る月盤古與日こそ二禮



具平親王

（九六四〜一〇〇九）

村上天皇の第七皇子。和漢兼作の人で漢詩、漢文も残されている。

この歌は、美しいもみが散り尽くしてしまつたのち、その結果もたらされた冬の月のあわれさを賞することによって、もみじへの哀惜の情をまぎらわせようとする心を歌っている。美しいもみじを失ったさびしさをまぎらわしながら、冬の月の美しさを再認識したのである。

学び方

歌意：もみじが散るのをどうして惜しんだのだろうか。木の間から洩れてくる月の光はこのようなもみが散ってしまつた今宵だからこそみられるのだ。

四行書きを紙面やや右に寄せた構成にしてみました。四行という構成上、必然的に縦長な字形、字間を広めに取ることになり、縦に流れる傾向になるので横線をきかせた字を使いバランスを取りました。隣の行との響きを大切に、潤筆の中の強弱、渴筆の中にも墨色の変化を心掛けてください。「木の」の右曲線は、寸松庵色紙の「むめのかをそでに：」の部分の変化に富んだ右曲線を参考にして同じカーブにならないように気をつけてリズムミカルに書きましょう。

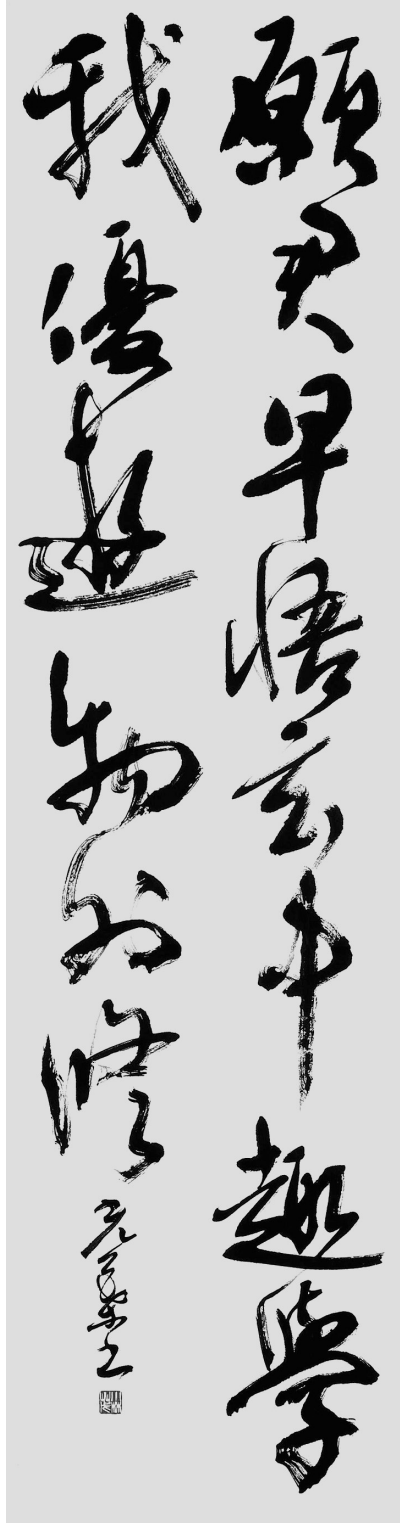
予告（二月二十二日締切）

たづね來む人たれならむわが室に深くさしたる冬の日のかげ（古泉千樞）

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを○で囲み（1）と記入する。）
- ・二枚目からの出品（バーコード券の条かを○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料525円）

小林光葉先生書

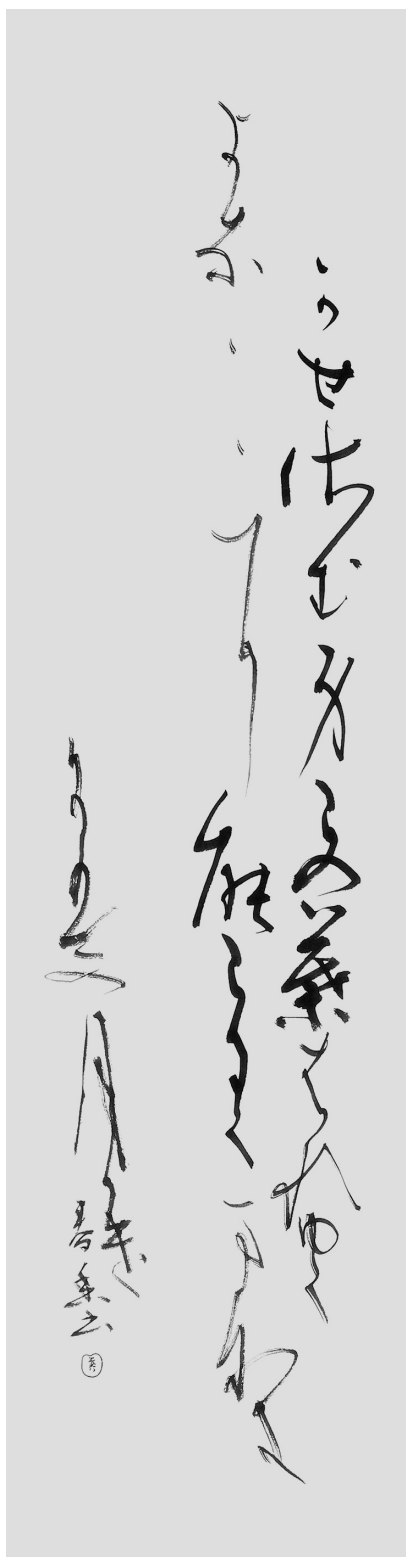
願君早悟玄中趣 學我優遊物外修 (無名人)
願くは君早く悟れ玄中の趣、学ぶ我が優遊物外の修。



訳：君に願うは外でもない老荘の学問の奥趣を悟ることであるが、我もまた世外に超然として優遊することを学ぼう。

石原春香先生書

風さむみ木の葉はれゆくよなくに残るくまなき庭の月かげ (新古今和歌集 式子内親王)
可せ佐む身この葉者れゆくよ奈、耳能こる久万那支尔盤の月可遣

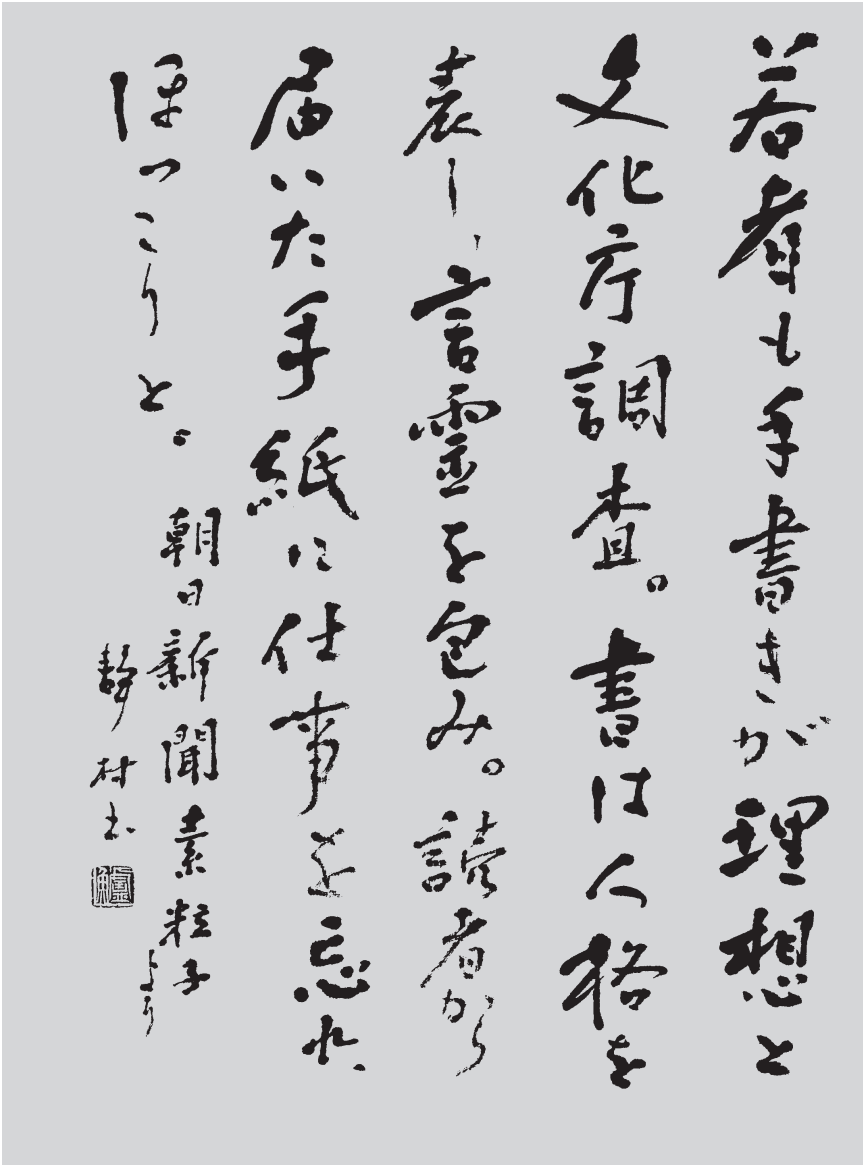


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条随を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料525円)

鈴木静村書

若者も手書きが理想と文化庁調査。書は人格を表し、ことば言霊を包み。読者から届いた手紙に仕事を忘れ、ほっこりと。

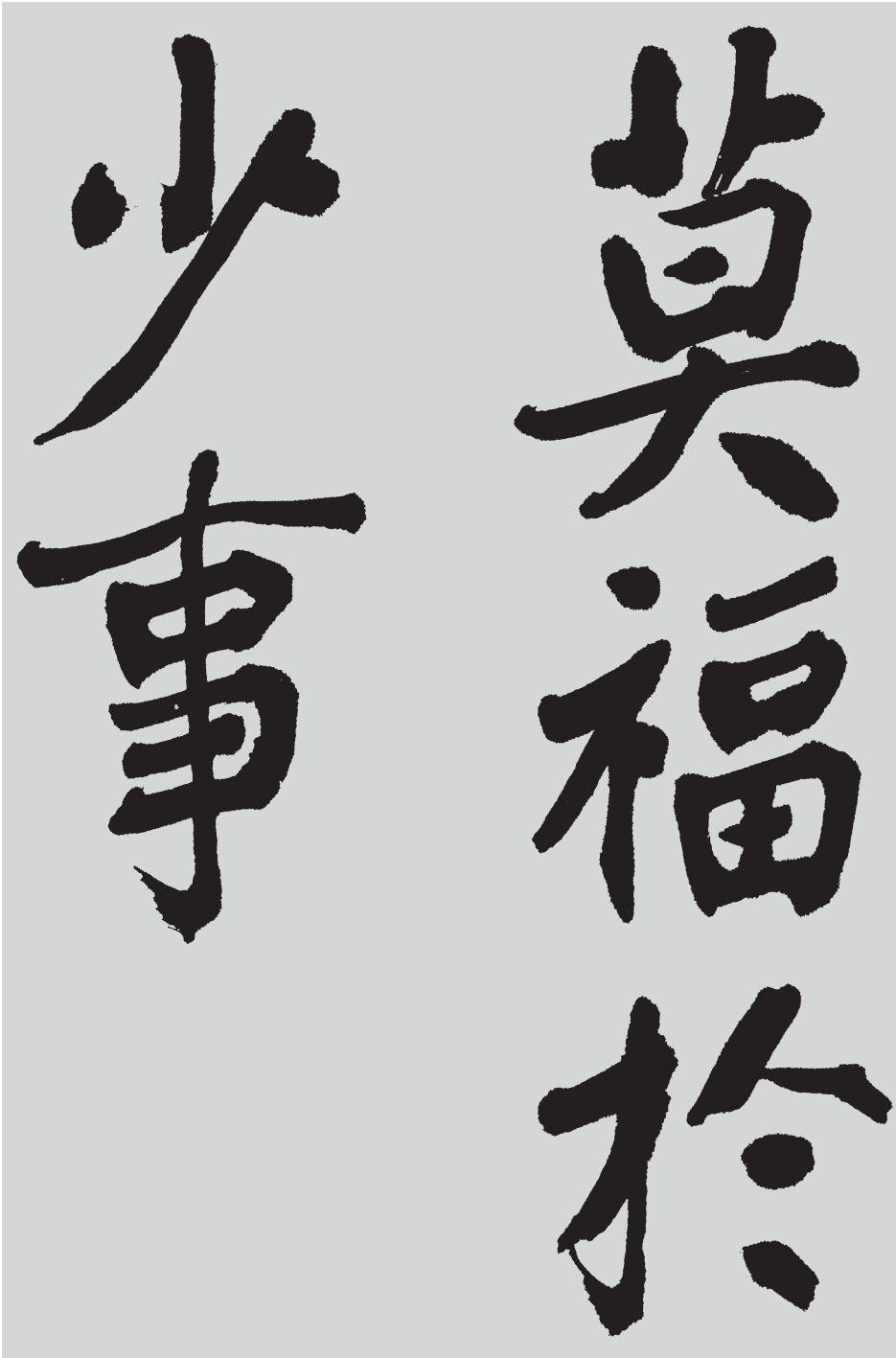
- ・朝日新聞(夕刊)素粒子より拝借。
- ・五行の「行書き」とし、落款は左記の通り
- 朝日新聞素粒子より
- 〇〇書㊦



- ・潤濁を効果的に、特に墨継ぎの工夫を。
- ・句読点は記号ではなく、一文字として有効化。
- ・漢字・かなの調和、漢字は凡そ行書体で。
- ・かなは単体の筆意にて、連綿は二字を目的に。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料525円。

- ①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

事少きより福なるは莫し（菜根譚）
訳：身近にごたごたがないのが一番の幸福である。

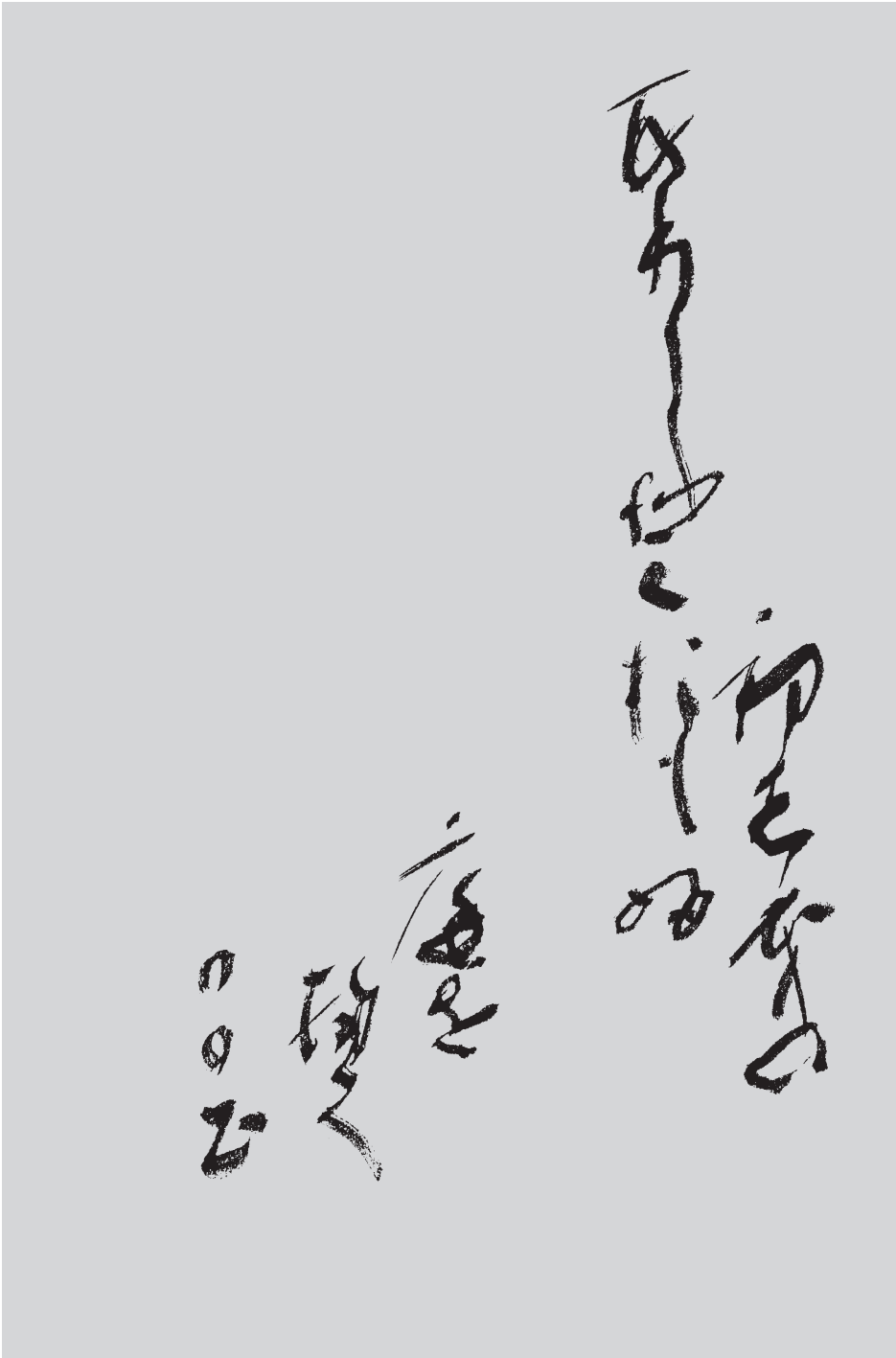
〈終筆のこと〉
横、縦、点の終筆は、止めて返すか、抜くかの用筆で、押さえる用筆はありません。押さえは不可です。初歩のうちには、筆圧を加えることと、押さえることを混同しやすいのです。ここで皆さんの終筆をふり返ってみてください。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は420円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

初霜のありしと思ふ庭を掃く（藤羽）
 初志しも茂ものありし登と於おも婦庭ふを掃く



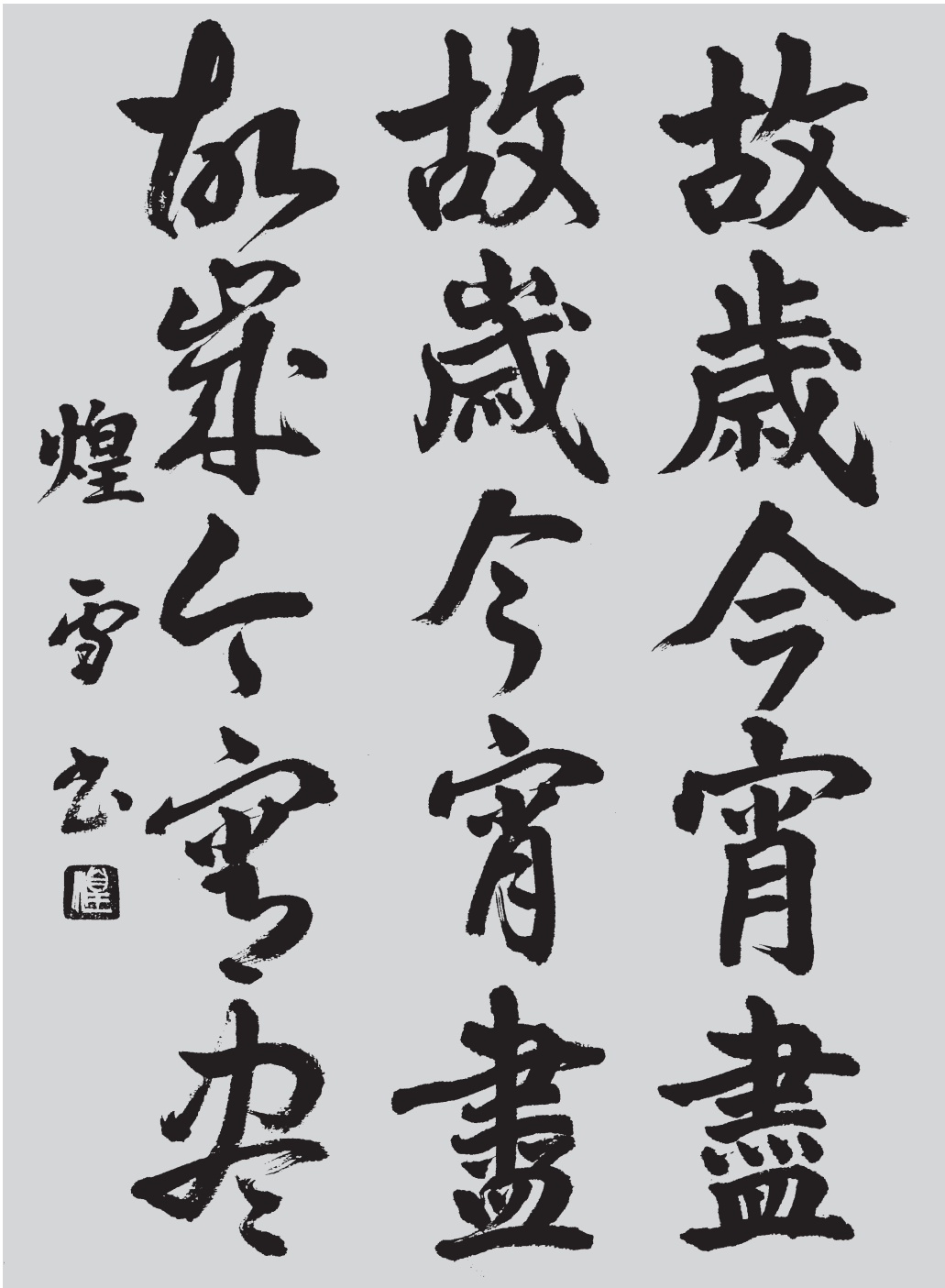
（書調を主に）
 右群二行、左群三行の構成（落款も群の一部）。左上半に大きな余白。主群は右。中でも第二三行目。ここに主調をおきます。この主群を左群がどう支えていくかが構成上のポイント。この場合の墨継ぎは、左群の「庭」字が適当と思えます。大きい余白を活かせるよう書調の活性化に努めて下さい。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は420円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

星野煌雪先生書

故歲今宵盡（張說）
こさいこんしょうつ
故歲今宵盡き、



訳：歳まさにゆかんとする歳暮の感である。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は420円。



祭
姪
文
稿

顏
真
卿

方
期
穀

方に穀せんこくを期せしに、

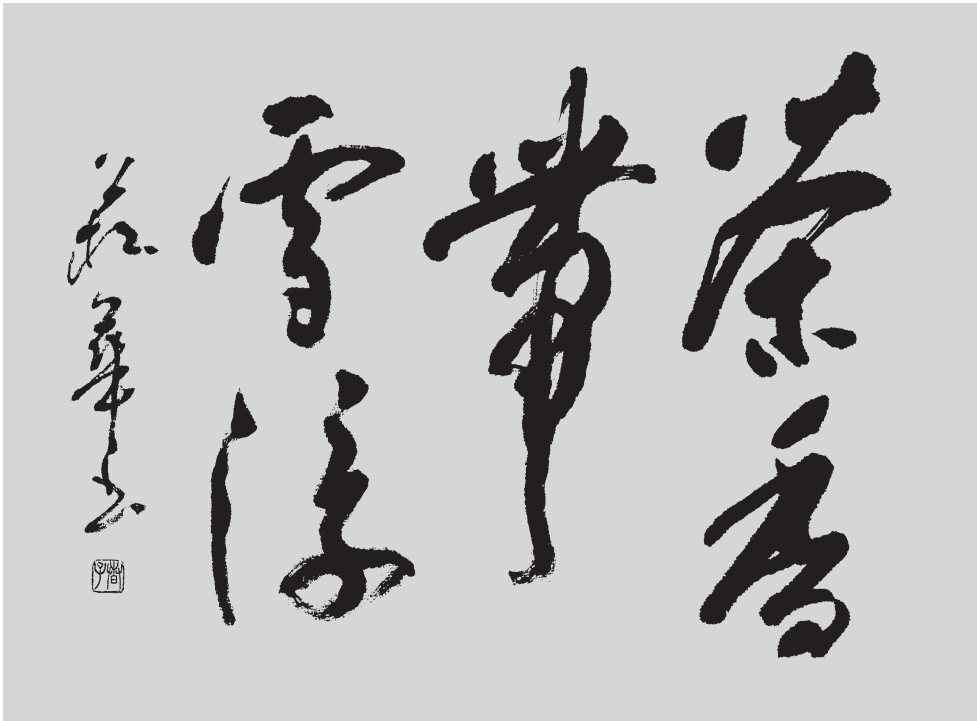
(天来書院)

◆随意部参考として出品してください。

随 意 部 参 考

小暮 菘華 先生 書

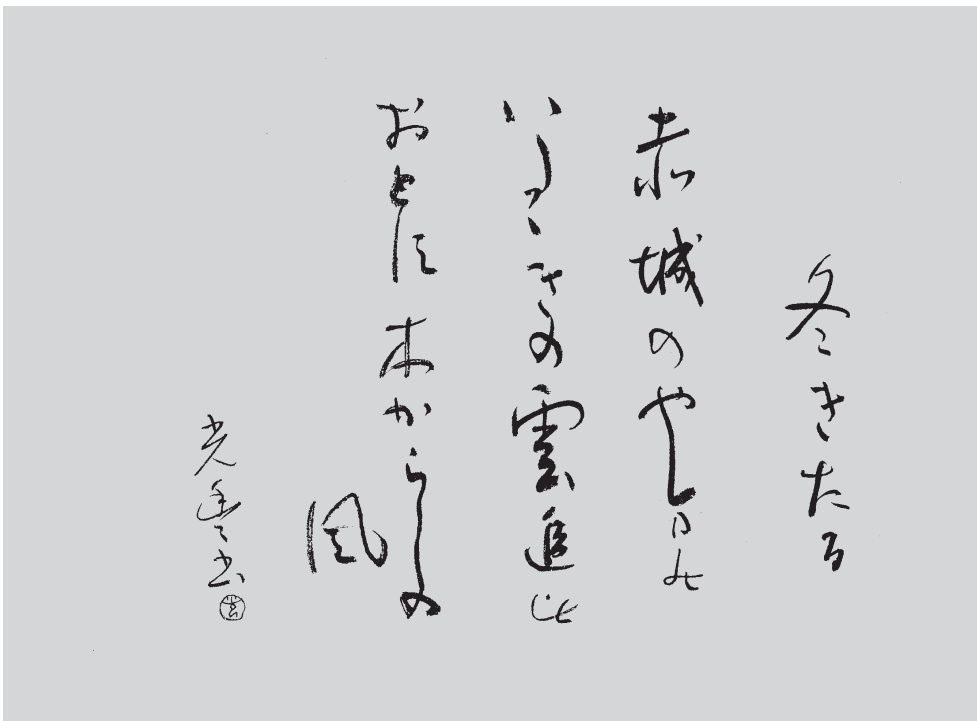
茶香帶雪浮（王九微）
茶香雪を帯びて浮ぶ。



訳：汲みだした茶は雪の如き泡を立てて香ばしい。

絹 村 光 豊 先生 書

冬きたる赤城の山のいただきの雲おひおとす木がらしの風（与謝野晶子）
冬きたる赤城の万能い多き雲追比おと須木からしの風



1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は420円。

松浦江波先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

鎮守の森には、大きなふくろうが
巣くっている。それがたまたま鳴く
夜は、私の心にも冬がおとずれる。

その夜、忠八は珍しく酒を買い、
下宿先の家で燭をつけてもらった。
部屋の中央に模型飛行器を置き、
杯をふくみながらながめた。

課題1 (初段階以上)

その夜、忠八は珍しく酒を買い、
下宿先の家で燭をつけてもらった。
部屋の中央に模型飛行器を置き、
杯をふくみながらながめた。

「虹の翼」吉村 昭
※飛行器(原文)

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 昇試受験料 九四五円
会員外は四二〇円加算のこと。
- (5)

課題2 (初段階以下)

鎮守の森には、大きなふくろうが
巣くっている。それがたまたま鳴く
夜は、私の心にも冬がおとずれる。

「美の遍歴」白洲 正子